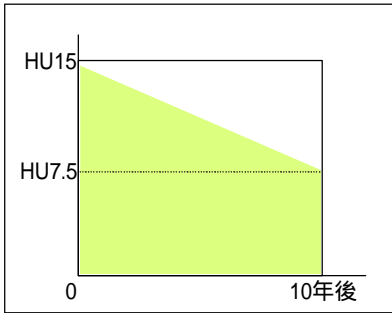


$0.75 \times 20 = 15$ です。

ところが、プロジェクトの実施によって、10年後までに、このうちの10haが失われることになりました。 $HU = 0.75 \times 10 = 7.5$ なので、下図のようなグラフが想定されます。



ハビタットの価値 (HU) の将来予測

HEPの評価形式

HEPでは、ハビタットの価値を時系列で変化するグラフとして表します。**プロジェクトを実施した場合と実施しなかった場合**それぞれの、数十年間の変化を、ある目標年次毎に算出します(フォームB)。縦軸にハビタットの価値、横軸に時間をとりグラフ化します(フォームC)。2つのグラフをオーバーレイすると、**そのプロジェクトにより損失するハビタットの価値**が示されます。さらに、損失するハビタットの価値と代償ミティゲーションによる効果を比較して検討することも可能です。

日本におけるHEPを考える

日本でのモデルの適用を考えると、HSIモデルの根拠となる知見はどれほどあるのか、モデルが出来たとして、その適用は妥当なのかどうか、またモデル作りを誰がやるのか等、多くの疑問や問題点が浮上し、混乱してしまいます。

米国において、HEPの基本形は1974年に完成しましたが、現行の形になったのは1980年です。200種余りのHSIモデルも25年間の蓄積の成果です。

また、米国のように国土が広ければ、大規模なミティゲーションも可能かもしれませんが、日本では事情が異なります。今回紹介されたHEPの手法を、そのまま日本に当てはめるのは難しいことかもしれません。

日本の事情に合った新しい手法が必要だと感じます。保全生態学や景観生態学といった、最近の研究分野には、その新しい手法が隠されているような気がします。

また、そのときには、HEPから学ぶべき以下の5点を提案したいと思います。

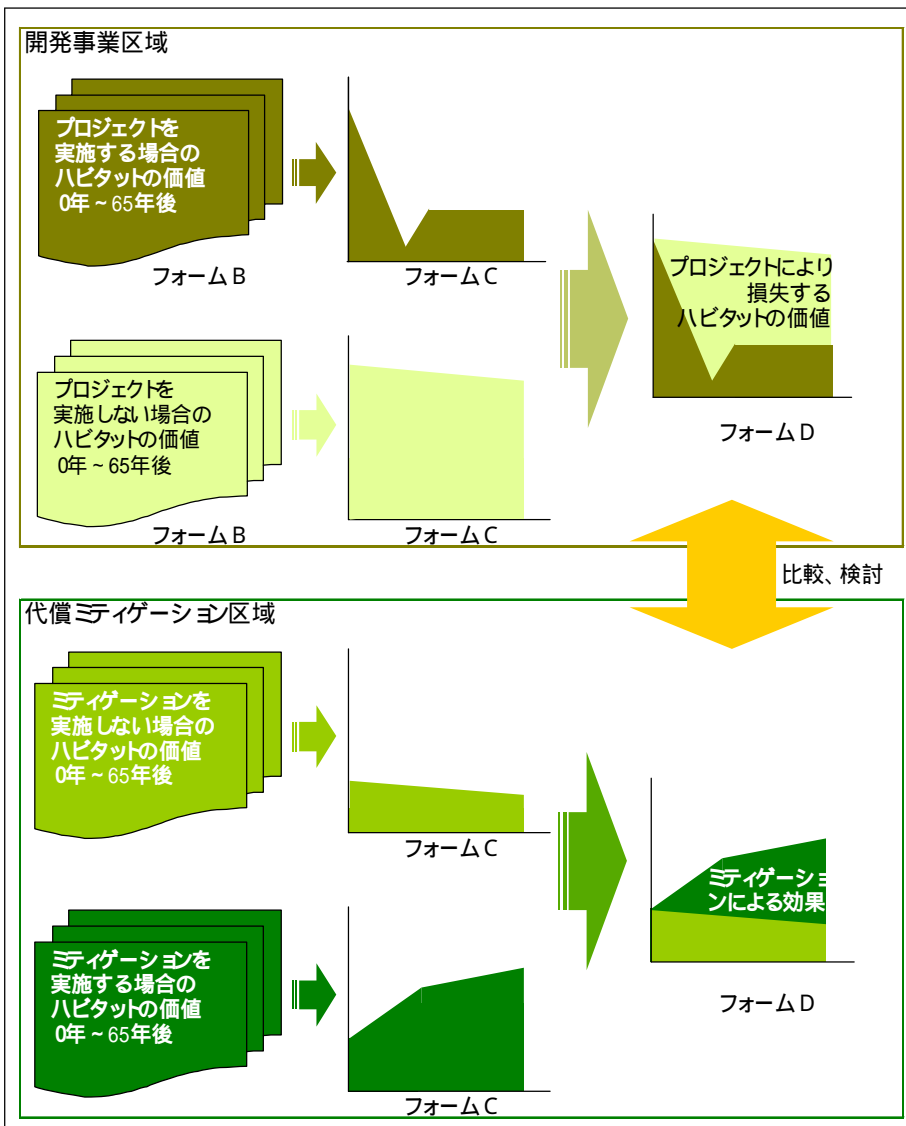
ハビタットの価値を定量化することで、環境政策上の合意形成ツールとしての機能を満たす。

生物学的根拠から逸脱しない。

事業に応じて十分に将来まで見通した予測をする。

予測・評価の基準となるモデルは各事業者ではなく、行政サイドが整備する。

ミティゲーションによる効果を明確にする。



ハビタットの価値 (HU) で示すプロジェクトの影響及びミティゲーションによる効果

(北海道支社自然環境調査室・渡邊 温)